

長期研修報告 - 土着天敵寄生蜂を利用したアブラムシ類の防除 -

(独)野菜茶業研究所において、土着天敵寄生蜂を利用したアブラムシ類の防除について研修を受けたので、その一部を紹介します。

天敵寄生蜂として、高知県内でも発生がみられ、ワタアブラムシ、モモアカアブラムシ(以下、モモアカ)、ジャガイモヒゲナガアブラムシ、チューリップヒゲナガアブラムシに寄生するチャバラアブラコバチ(以下、チャバラ、写真1)を用いました。対象害虫はピーマンのモモアカとし、チャバラの放飼頭数を変えてその防除効果を調べました。試験区として、1頭放飼区(1頭/株、2回放飼)、0.5頭放飼区(0.5頭/株、2回放飼)および無放飼区を設けました。そして、ピーマンに寄生するモモアカと、チャバラによるマミー(寄生蜂の幼虫が蛹になるため、アブラムシの体内で繭を作った状態のもの)の個体数を1週間に2回の間隔で調査しました。

その結果、無放飼区に比べてチャバラを放飼した試験区では、モモアカの密度は低く推移し、その傾向は0.5頭放飼区より1頭放飼区のほうが顕著でした(図1)。また、チャバラによるマミーは放飼12日後から見られ始め、その後、徐々に増加しました。本試験での防除効果はやや不十分でしたが、有望な防除素材としての可能性が示唆されました。

今後は、アブラムシ類を効率よく抑制するために、チャバラの放飼頭数とアブラムシ類の密度の割合を検討し、実用化につなげていきたいと思いをします。

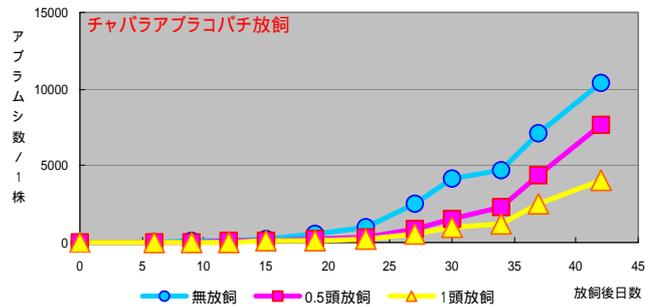


図1 モモアカアブラムシ個体数の推移



写真1 モモアカアブラムシに産卵中のチャバラアブラコバチ